時をまとう ゆるわしの まつやま

時代を拓いた文人・俳人

◇◇◇

駘蕩たる風土から生まれた文化を愛する先人たち

温暖な気候と、海や山などの自然に恵まれた松山市では、さまざまな文化が育まれ、熟成されてきました。藩政時代に盛んになったのが、薪能や俳句です。特に俳句では、江戸時代に小林一茶とも親交のあった栗田樗堂が句作を行っていたことが知られています。そして1867（慶応3）年には、正岡子規が誕生。幼い頃から漢詩や回覧雑誌の編集などで文才を発揮していた子規は、その生涯はわずか34年でしたが、詠んだ俳句は約2万5000句にも及び、俳句と短歌の革新運動に力を尽くしました。

人間的にも魅力的だったと言われる子規の周りには、たくさんの人たちが集まってきました。秋山好古の弟・真之とは親しい付き合いをしています。また東京大学予備門の同級生であった夏目漱石は、松山にいた頃、子規の影響を受けて本格的に俳句を始めたと言われています。さらには高浜虚子や河東碧梧桐、柳原極堂らも、子規がいたから後世に名を残すことができたのかもしれません。

現代へと受け継がれた文化が花咲く俳都松山

彼ら文人・偉人の功績は、今もさまざまな形で松山市に息づいています。例えば市内に400基以上もある句碑、誰もが気軽に投函できる「俳都松山 俳句ポスト」、「俳句甲子園 全国高等学校俳句選手権大会」、昭和63年に創設した「坊っちゃん文学賞」などはその代表例。栗田樗堂が結んだ庚申庵、漂泊の俳人・種田山頭火の終の住処となった一草庵など俳都の風を感じられる風物はあちらこちらにあります。そして何より、松山市立子規記念博物館では、「近代俳句の祖」の短くも濃厚な生き様にふれることができるのです。

まつやま
日本で一番
笑顔があふれるまち

Matsuyama is the birthplace of many haiku poets, including MASAOKA Shiki who contributed to movements revolutionizing modern haiku and tanka poetry. With its hosting of haiku- and literature-associated events, the city offers ample opportunities for the enjoyment of literary pleasures.

1. 子規堂

正岡子規が17歳まで過ごした邸宅を復元。子規の勉強部屋などを再現しており、子規の遺墨や遺品などが展示されている。

■住／松山市末広町16-3（正宗禅寺境内）
■問／089-945-0400
■営／9:00～17:00、無休

2. 庚申庵史跡庭園

創建当時の姿に復元された栗田樗堂ゆかりの庵。四季の自然が感じられる風流な庭園となっている。

■住／松山市味酒町2-6-7
■問／089-915-2204（庚申庵史跡庭園事務所）■営／10:00～18:00（季節により異なる）、水曜（祝日の場合は翌日）休

3. 松山市立子規記念博物館

「人間正岡子規」をテーマに子規の直筆資料など貴重な資料を展示している。

■住／松山市道後公園1-30
■問／089-931-5566
■営／9:00～17:00（5～10月は～18:00）、火曜・祝日の翌日（土日除く）休

4. 松山中学校跡の碑

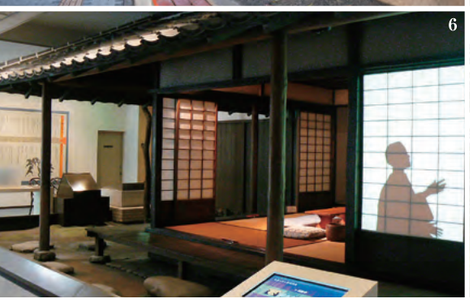
正岡子規が学び、夏目漱石が英語教師として赴任した旧制松山中学校（現・愛媛県立松山東高等学校）のあった場所。碑には漱石の俳句が刻まれている。

■住／松山市一番町4-3　見学自由

5. 一草庵

種田山頭火が亡くなる前の10カ月間を過ごした庵。内部の見学は土・日曜のみに限られている。

■住／松山市御幸町1-435-1
■問／089-948-6891（松山市文化財課）
■営／9:00～17:00（季節により異なる）、月～金曜休、外観見学自由

6. 愚陀佛庵（復元）

英語教師として愛媛県尋常中学校に赴任していた夏目漱石の下宿先で、里帰りした子規が居候をした場所。建物は戦火で焼失し、萬翠荘裏手に復元されていたが、こちらも倒壊。松山市立子規記念博物館には1階部分を復元した展示がある。